

ダイジェスト版

発達 わがれば 子どもが 見える



0歳から
就学までの
目からウロコの
保育実践

監修 田中真介 京都大学准教授
編著 乳幼児保育研究会

4人の専門家も推薦！

これは、保育士たちが長年の実践・研究を
まとめた貴重な「発達支援の基礎資料」である。

大場幸夫 学長
(大妻女子大学)

保育者(大人)が、子どもと共に育つ関係性を構築
していくための視点で買われている実践の本です。

加藤繁美 教授
(山梨大学)

保育の基本は、「子どもの発見」です。そのために
子どもを共感的に観察してきた見事な成果です。

汐見稔幸 学長
(白梅学園大学)

保育者が、子どもの言動に十分に耳を傾け、
目を注ぐ大切さを実践してまとめた本である。

佐々木正美 教授
(川崎医療福祉大学)



「**子どもの発達論**」と「**保育論**」
の双方を網羅。
保育士も保護者も、子どもを
育てる全ての人のためになる
内容です。

はじめに

国連では、1948年に「世界人権宣言」が採択され、同じ年に日本では「児童福祉法」が施行されました。2009年はその60周年にあたります。また、保育所保育指針が改定され、2009年4月に施行されます。この本を、記念すべき年に発刊できた喜びとともに、子どもの権利を大切にし、健やかな発達を願う一人でも多くの方に、日々の保育の中で活用していただければと願っています。

私たちは、1990年、今から18年ほど前になりますが、東京都新宿区で産休あけの子どもから1歳児までの乳児保育園に勤務していた時に、今は亡き田中昌人先生（京都大学名誉教授）と田中杉恵先生（滋賀大学元教授）そして、有田知行氏（写真）の共著「子どもの発達と診断1～5」（大月書店）をテキストにして、発達にそくした援助や保育内容を見直し合う園内研修を行いました。その中で保育者が、子どもの発達を見通して子どもの内にある成長しようとする力を大切に、きめ細やかに援助し保育を実践すると、子どもたちが生き活きと伸びやかに変化をし成長していくことを実感しました。また、保育経験を頼りに積み重ねて行くだけでなく、きちんと子どもの発達についての科学的な研究成果を学び理論立てて実践していくことの大切さを学んだことは、まさに「目からうろこ」でした。その後、転勤で当時の職員は他園に分散しました。

1994年11月に、その時の有志で、もっと発達の学習を深めたいと考え、「特別区職員研修所自主研修グループ」として勉強会を立ち上げました。そして2000年には、新宿区に職員の自主的な研究活動に対する助成制度ができたのを受け「新宿区職員自主研修グループ乳幼児保育勉強会」として、発達の学習を続けました。毎月の事例検討の例会と並行して、「発達がわかれば保育に見通しが持て、子どもが見えてくる」ということの大切さを、田中真介先生（京都大学准教授）を講師に招いて深めていきました。当初は乳児中心に3歳児までの発達をまとめていましたが、幼児担当

の保育者から幼児の保育で悩んでいる声が多く寄せられ、就学前まで年齢を拡げて、乳幼児期全体の発達にそくした援助と保育内容を学び合ってきました。

2008年3月には新たな保育所保育指針が告示され、今まで以上に保育者の学習と専門性が求められています。まだまだ私たちも学習途上ではありますが、学習と実践の中で得たこの14年間の研究成果をまとめました。本書には次のような特徴があります。

本書
の
特徴

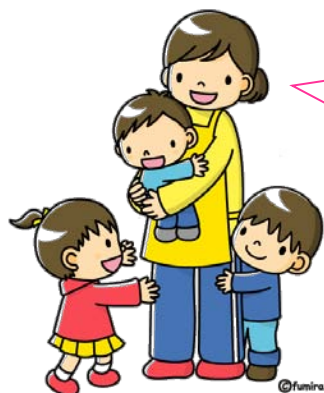
- 1) 子どもたちの発達の最も重要な特徴を、年齢ごとにまとめました。
- 2) 発達の特徴に焦点を合わせて、「育児の方法」「あそびへの関わり方と援助の仕方」について詳しく述べました。
- 3) 集団づくりに重点をおいて、発達をとらえた「集団づくり」のあり方及び「クラス運営」の具体的な内容構成の例を挙げました。また、年齢別のあそびも一覧表にしています。

本書の内容を保育内容を豊かに展開する時の参考にしていただき、さらに発展させていただければと願っております。

保育実践に活用しやすいものという思いで作りましたが、日々の保育の仕事の合間に集まって検討し、加筆する繰り返しをした原稿で、まだまだ補っていくべき点多々あると思います。少しでも日々の保育実践の道標になればと思っております。

2009年1月

乳幼児保育研究会



乳幼児保育研究会は、新宿区の現役保育士5名が集まり、日々よりよい保育についての勉強や情報交換をしています。また、監修の田中真介先生は、京都大学高等教育研究開発推進センター准教授です。この本は、現場と学問のスペシャリストがタッグを組んだ1冊と言えます。

第2章

首がすわるまで 【0か月～3か月】

* 個人差がある子どもの発達を《生理》《運動》
《感覚》の各機能から考察しています

赤ちゃんは、生まれてから2か月頃までの間に音や光、周りの環境を刺激として受けとめながら、人として育っていく身体の土台を作っていきます。

1 全身発達

《生理的機能の発達》

- ・ 1日の平均総睡眠時間は17時間前後とたっぷり眠ります。眠りの1単位は短く、昼と夜に対応した眠り方ではなく、1日の中で眠りと覚醒が何度も交代し繰り返されます。
- よく眠っているように見えても、脳波の半分は眠っていない状態なので、眼球が動いたり、顔や手指がピクピク動いたりします。入眠時には、微笑みのような表情がよく表われます（生理的微笑）。
- ・ 舌の前後運動で母乳やミルクを飲みます。
- ・ 視力は0.02程度で、大人の1/8～1/25です。18～30cmの距離のものが見えます。

《運動機能の発達》

- ・ 原始反射のために、手の親指と人差し指は内側に閉じていることが多く小指と薬指の側が反射的によく開きます（0～2か月）。
- ・ 腕や足が体幹と関連しながらも、そこから相対的に独立していないために、仰向けでもうつぶせでもべたっと床面についています。手足は反射的に動かしますが、頭は左右どちらかに向いています（1か月頃）。

- ・首がすわり始めると、仰向け姿勢で正面を向くことができ、自分で少し首を動かして左右を見回すことができます。
- ・仰向けの姿勢で、手と手、足と足を触れ合わすなど、正中線上に向けて手足が内側方向に対称的な動きになります(3か月頃)。
- ・手と手、手と口の協応ができ始めます(3か月頃)。
- ・紙に描かれた顔(☺)やぬいぐるみの顔など、顔の形をしているものを見て自分から微笑み、手足を動かします(3か月頃)。
- ・引き起こしに頭がついて来るようになります(3～4か月頃)。
- ・仰向けで保育者が胸上で物を左右方向に動かして見せると、赤ちゃんは追視し始めます。また、折り返し点での視線の途切れがなくなり、往復追視ができるようになります(3か月頃)。

《感覚機能の発達》

- ・光(明るい光・色、優しい光)に対し反応します(1～2か月頃)。
- ・音や話し声の方に顔を向けます。
- ・鼻から出ていた音声(喉からも出るようになり、母音に喉子音が結びついた発声)をします(3か月頃)。
- ・不快感が芽生え、空腹になったり、オムツが汚れたりすると、目覚めて泣いたりします(2か月頃)。
- ・抱っこされると泣きやんだり、安心した表情を見せます(2か月頃)。

2 育児におけるかかわり方と配慮

《健康と室内環境》

●健康づくり

- ・赤ちゃんの健康状態や室内外の温度・湿度に合わせて衣服の調節をしましょう。温度の変化に弱く体温の失調(発熱・低体温)を起こしたり、新陳代謝の異常を起こし易いので、室温は27度～28度が適温です。湿度にも気をつけ、保温と保湿に努めましょう。
- ・沐浴時は、健康状態を把握し実施前に検温を行います。不安感を持たせ

ないようにガーゼで身体を覆い、初めは石鹸を使わず短時間にしましょう。首のくびれをはじめ、身体のかぶれ部分に汗や皮脂が溜まり汚れ易いので丁寧に洗います。沐浴後は、必ず白湯などで水分補給を行います。

●室内環境

- ・保育室や受け入れ室は、清潔感のある家庭的な雰囲気作りを心がけましょう。
- ・音に対して敏感なので(モロー反射など)、大きな音をたてて不安感をつのらせないようにします。また、優しく穏やかな声で語りかけましょう。
- ・採光に気をつけ、柔らかい陽射しを取り入れていきます。
- ・赤ちゃんは、病気に対する防衛機能が未発達なので、病気にかかるると急激に悪化することもあります。衛生面に留意しよく観察をしていきます。

《生活リズムの作り方》

●授乳

- ・母乳が続けられるよう母親を励まし、冷凍母乳の管理は栄養士や看護師が行うようにします。1回の授乳時に左右の乳房を交互にバランスよく授乳すると、母乳が乳房内に滞留することを少なくし、乳腺炎等の予防になります。そのような授乳時の留意点などについて母親にアドバイスしましょう。
- ・吸う力が強くミルクの量が多くなり過ぎる傾向がある場合は、乳首のサイズをSサイズにするなど、赤ちゃんが一定量で満足感が得られるようにします。また、飲み終えた後だらだらと溢乳が続く場合は、その子の胃の容量以上に飲んでいる場合もあるので、ミルクの量を少しずつ減らして様子を見るとよいでしょう。
- ・飲んだ直後に勢いよく吐いたりすることなどが続く場合には、医療機関を受診してみましょう。
- ・授乳は抱いて微笑みかけたり優しく語りかけたりして、ゆったりとした気持ちで行いましょう。
- ・授乳後は必ず排気をさせましょう(背中を下から上へと優しくなで上げるようにします)。

コラムでは、著者の周囲での事例を紹介。
「意外な落とし穴」や「予想外のコツ」に気付かされます。



Column

夜のオムツ交換は？

☆夜は、十分に眠ることを優先しましょう。☆

夜間に何度も目覚めてしまうK君（6か月）。産休あけで入園してきており、日中のリズムはできて来ていました。ところが、夜間に目覚める回数が多くそのたびに遊び出してしまうとのことでした。お母さんにK君が目覚めるきっかけを尋ねてみると、オムツが濡れるたびに交換しているとのことでした。

オムツが濡れたら不快でしょうし、取り換えてあげるのは大切ですが、睡眠中は睡眠を優先に考え、目覚めた時に交換するので十分です。また、紙オムツの性能も改良されていますので、夜間には利用してみるのもよいでしょう。

3 あそびへのかかわり方と援助

《腹這いの始まり》

- ・2か月頃から、機嫌や体調のよい時に、腹這いの姿勢を取り入れていきましょう。1日に1～2回（1回に5分前後）から始めます。身体が支え易い畳やカーペットなど、硬い所で行い、嫌がる場合は無理をしないようにしましょう。
- ・赤ちゃんが顔をしっかりと上げて姿勢を保てるよう保育者が前方に玩具を置いてあげたり、声をかけてあやしてあげると、赤ちゃんも顔を上げて前を捉えようとします。

赤ちゃんを腹這い姿勢にしている時は、大人は、赤ちゃんが溢乳や嘔吐物等や敷物等で口や鼻がふさがらないように見守り、気をつけましょう。

- ・腹這いの姿勢にして、赤ちゃんの胸で上半身を支える時には、バスタオル等を丸めて作った細長いロールクッションを胸の下に入れてあげて、上半身を支え易くなるようにします。



* 可愛いイラストを多数掲載。

読んでも見ても、楽しくわかりやすいように工夫されています。

4 玩具

玩具の素材や材質は、留意して選びましょう。特に、なめると環境ホルモンが溶け出す塩化ビニール製の物は避けます。大きさも、直径が3.5cm以下の物は、誤って飲み込んで窒息等を招いたりするので避けましょう。

● 横向きで見えるもの

・ 回転木馬

・ ロディ

・ 起き上がりこぼし など



● 吊り玩具

赤など明るくはっきりした色のもの。2か月までは1個を吊るし、追視が始まったら数を増やしていきましょう。

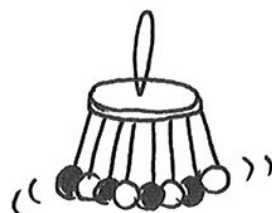
・ 赤い毛糸玉 (手作り)

・ 赤い吊り輪 (手作り)

・ ケルンボール など



セロテープの芯に赤いフェルトを巻いたり鈴をつけて音をならす



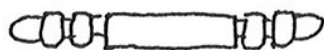
● 握り玩具 (軽くて明るい色)

握り玩具は、軽くて握りやすく柔らかい音の出るもの、明るい色彩のもの、丈夫で清潔の保てるものを選びます。

・ シリコンチューブ (細)

・ チャコ

・ ガラガラ など



* 月齢、年齢別の発達を掲載。

子どものどこに注目して成長を見守ればいいのかわかります。

★発達観察のポイント★

生後4か月の発達観察では、①乳児期前半の力が充実してきているか、②乳児期後半(生後6～7か月頃)への飛躍のための「新しい発達の力」が芽生えているか、この2点を観察することが重要となります。その上で、お母さんと懇談し、思いを受けとめながら、育児で気をつけることを確認しあいます。

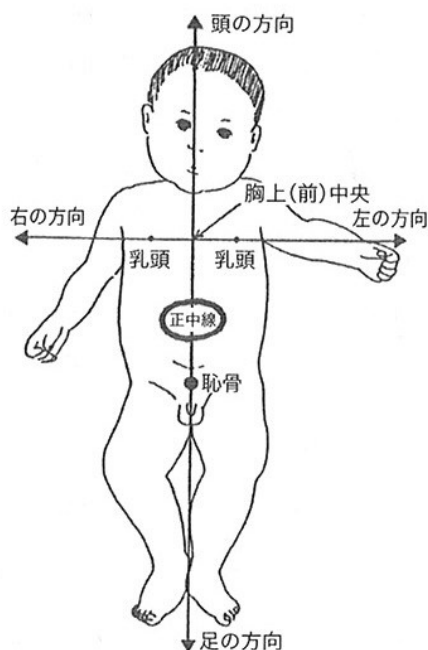
赤ちゃんについては、まず〈仰向け〉、次に〈支え坐り〉での発達観察を行います。

(1) 仰向けでの観察

- ・首のすわりを確認します。4か月になっても、頭がぐらぐらしたり、引き起こしに頭が後に残っている場合には、その後の経過を注意深く観察します。
- ・相手や指標をしっかりと注視するか。例えば赤い輪などを提示されたときに、すぐに見つけて、瞳が「みつけた!」といったような輝きが出ているか。左右へ動く指標を追視するか。

(2) 支え坐りでの観察

- ・赤ちゃんを支え坐りにして、正中線上を基点に、保育者が左右に物を動かして見せた時に、赤ちゃんの視線が途中で途切れていないかを観察し、途切れる場合は、その後の経過を注意深く観察していきます。
- ・膝の上で支え坐りにした時、左右両方の物を見ることができるかどうか。それによって左右の脳の発達が同水準になっているかがわかります。



【参考文献】 田中昌人・田中杉恵・有田知行

(写真)「子どもの発達と診断1 乳児期前半」大月書店、1981。

第14章

あそびの展開とクラス運営 【3歳児～5歳児】

* 3歳～5歳の各年齢におけるあそびのポイントと
具体的なあそびの内容をわかりやすく紹介しています。

I 3歳児クラスにおける活動内容と展開

1 あそびの配慮

- 1) 一人ひとりのあそびを大切にしながら、集団でのあそびの楽しさを経験させていきましょう。また、計画的にクラス全体での活動を取り入れるようにします。
- 2) 3歳代には「自分でするんだ」「我慢しなくちゃ」という気持ちが育ち始めていますが、その中でも様々な葛藤があります。それを乗り越え、自制心と自励心を獲得していくためにも自分の要求を言葉で表現できるようになることは重要でしょう。友だちとの言葉でのやりとりの仕方を知らせたり、言えたこと、聞いたことを認めていきましょう。
- 3) 子どもの興味や自発性を大切にしながら、人にわかるよう表現しようとする気持ちを育てます。
- 4) 集団の中で必要なきまりやルールを明確にし、子どもたちにわかりやすく説明します。トラブルがあった際にはお互いの話を十分に聞いたうえで相手の言い分や気持ちを理解させ、友だちとの心地よい関わりと一緒に遊ぶ楽しさを経験させていきます。
- 5) ごっこあそびの導入として、保育者があそびに入りやりとりを知らせていくようにします。あそびが盛り上がれば保育者は見守る側にまわり、あそびが崩れそうになったら再度入ります。最初は少人数から始

め、徐々に人数を増やしていくようにしましょう。

- 6) 簡単なお手伝いができるようになりますので、そのような力を発揮できる機会を設けます。
- 7) ままごとあそびでは、気の合う子3、4人でままごとが楽しめるようになってきます。子どもたちの中で、役を決めたり、あそびをリードしていく子どもも出てきます。普段、玩具を一人占めしがったり、友だちとの関わりの中でなかなか譲れない子どももあそびの主人公となること、役になることで、貸し借りができたたり譲ることができます。ままごとあそびを通して自分の気持ちをコントロールする力を育てていきましょう。
- 8) 一斉での活動ができるようになってきます。一方で、3歳児クラスになり「今は〇〇しなくちゃ」と全体での活動の輪に入るものの、実際の活動が始まると尻ごみしてしまう子どももいます。まずは、みんなの輪の中に入ったことを認め一緒に活動するきっかけを作るようにしましょう。例えばリズムあそびでは、音楽に合わせて楽しく身体を動かします。はじめは保育者が決めた動きで始めていきますが、子どもたち自身に楽しい動きを考えさせてそれらを取り入れていくと、自分たちのあそびという印象が強くなり、自分たちが考えたところや気に入った動きのところには参加するようになります。まずはみんなと一緒に活動するという一歩を踏み出せるよう保育者が援助していきましょう。



いまさら聞けない、というところも
確認できて便利です。



特に
おススメ!!

あそびの展開とクラス運営 (3歳児)

*3歳～5歳児については、年齢、月ごとに取り組みたいあそびや環境作りを一覧で紹介。年間カリキュラムを組む際の参考になります!

2 玩具とあそびの展開

3歳	あそび(玩具)	4月～8月	9月～3月
操作的あそび	・はさみ ・折り紙 ・パズル(ジグソーパズル) ・ジャンボビーズ ・花おはじき ・ペグさし ・粘土 ・こま	・切りおとし ・直線切り ・合わせ折ができる。3～5工程を折って作れる。 ・20～50ピースを楽しむ。 ・紐通し ・並べたり、色分けして遊ぶ。 ・色分けしながら、簡単なイメージをしたものを作る。 ・伸ばしたり、丸めたもので形を作る。	・丸や四角の線の上を切る。 ・折る方向を変えられる。5～8工程を折って作れる。 ・紐通し ・並べたり、色分けして遊ぶ。 ・粘土ベラなどの道具を使って遊ぶ。 ・つまんで回す。
	*あそびの配慮 一人ひとりが十分に遊べるようスペースを保障して行う。また、その周りでの活動も配慮し、ぶつかって壊れてしまったなどのトラブルを避けていく。		
構造的あそび	・積木 ・カプラ ・井型ブロック ・デュプロレゴブロック ・ドミノ	・積み上げる。 ・並べる。 ・大きなものから細かなものへ移行していく。 ・イメージしたものを作る。	・高く積み上げる。 ・同じように積み上げる。 ・作った物に意味付けをし友だちと関わって遊ぶ。
	*あそびの配慮 平行あそびから友だちとイメージを共有し関わって遊ぶようになってくるので、友だちと関わるきっかけ作りやあそび方を知らせていく。		
造形的あそび	・描画 	・好きな絵を描く。 ・顔を描く。 ・円と線を描き分ける。	・頭足人を描く。 ・顔を描く時、目、鼻、口、耳、まゆ毛を描くようになる。 ・ぬりえをする。
	・工作あそび	・糊の使い方を覚える。 *子どもの作りたい時、描きたい時、すぐにできるよう素材を準備しておく。	・絵の具ではじき絵を楽しむ。 *見たもの、遊んだものをイメージして作らせる。
	・砂、どろんこ	・どろんこいじり、型抜き、山作りを楽しむ。	・トンネル作り、お団子作りを楽しむ。

3歳	あそび(玩具)	4月～8月	9月～3月
造形的あそび		・フィンガーペインティング、色水あそび	＊変化する素材や空間を準備する。
	＊あそびの配慮 室内でも戸外でもできるあそびなので、イメージしたものを形にする楽しさを十分味わえるようにする。		
役割あそび	・簡単なルールのあるあそび	・しっぽとり ・椅子とりゲーム	・鬼ごっこ ・かくれんぼ ・フルーツバスケット ＊経験したもの、目で見えてわかる簡単なルールのあるあそびを取り入れる。 ＊役を決めて遊べるようになるが、役が平等になるよう援助が必要である。
	・ままごと	・生活の模倣	・お店屋さんごっこ
	・ごっこあそび	・お家ごっこ ・お医者さんごっこ ・レストランごっこ ・遠足ごっこ ・乗り物ごっこ ＊役割がはっきりするごっこあそびを取り入れる。 ＊保育者があそびに入ると長続きする。最初は少人数から人数を増やしていく。	・劇ごっこ ・おしゃれごっこ ＊動物、身近な人、物の特徴を捉えて表現する楽しさを経験させる。 ＊経験したことを言葉で表現させ共感して受けとめる。
	・劇あそび	・なりきって遊ぶ。	・セリフを言ったり、歌や踊りで表現する。
運動あそび	＊あそびの配慮 ルールのあるあそびは、始める前に必ず子どもとルールを確認する。 ごっこあそびは子どもがなりきって遊べるようさまざまな素材を用意しておく。		
	・歩く(散歩)	・直線上の歩行ができる。 ・つま先歩き、かかと歩きができる。 ・ギャロップができる。	・スキー歩き、階段の交互昇降ができ始める。 ・ジグザグの動きやスキップができる。
	・走る	・かけっこ ・おいかけっこ	・単純なリレーができる。
	・跳ぶ	・両足跳び ・へび縄跳び	・片足跳び・ケンパ
	・ボール	・つく。 ・目標に向かって投げる。	・蹴る。 ・片手上手投げ

発達がわかれば 子どもが見える



～0歳から就学までの目からウロコの保育実践～

【監修】田中真介 京都大学准教授 【編著】乳幼児保育研究会 ★A5判・定価1,700円（税込）

本書の 特徴



- ▶ 月齢・年齢別に、「発達」の最も重要な特徴を解説
- ▶ 現役保育士と京大准教授、現場と学問の2つの視点で毎日の育児に役立つ子育てのコツを紹介
- ▶ 可愛らしくわかりやすいイラストを多数掲載
- ▶ よくある事例をコラムで紹介
- ▶ 2009年4月施行の新しい保育所保育指針にも対応



～私たちが推薦します～

・大場幸夫（大妻女子大学学長）・加藤繁美（山梨大学教授）・佐々木正美（川崎医療福祉大学教授）・汐見稔幸（白梅大学学長）

※50音順

読者の声

- すばらしい本です。園内研修、保護者との勉強会で活用しています。（北海道／幼稚園長・男性）
- 年齢に沿った保育実践例は、とてもわかりやすかった。（長野県／保育士・男性）
- 改めて保育・子育てを学んだ気がします。職員皆で役立てています。（岩手県／保育園長・女性）
- とてもわかりやすく、子育て中の私には子どもと一致することが多く読みやすかったです。（愛媛県／保育士・女性）
- 「column」欄が秀逸です。保育所の巡回相談で、話の途中でパッと開いて示すのにとても便利でした。（鹿児島県／発達相談員・女性）
- 保育指針の改定を受けて、それに基づく保育計画を策定している中、本書を見つけました。内容が具体的で、発達過程をまとめてあり、園の年間指導計画に使えるため、職員全員で購入することにしました。本書は、田中昌人先生の「子どもの発達と診断」に沿っていて、さらにコンパクトで読みやすいです。（神奈川県／保育園長・女性）
- 職場に育児中の若い方が多いので、プレゼント用に6冊購入しました。とってもいい本ですね。（愛媛県／公務員・男性）



発達がわかれば子どもが見える

0歳から就学までの目からウロコの保育実践

商品に関するご照会・お申込みは、下記までお気軽にどうぞ！



【TEL】

Fre

0120-953-431



【FAX】

Fre

0120-953-495



【WEB】

http://www.gyosei.co.jp

ぎょうせい

検索

Click!

お近くの支社又は事務所でも承っております！

ご記入欄

発達がわかれば子どもが見える

定価1,700円(税込)送料290円

部

上記のとおり申し込みます。

平成

年

月

日

御住所

(〒)

御氏名

1. 社費
2. 公費
3. 私費

御電話

()

E-mail

■新刊情報

【☐希望する ☐希望しない】



※お客様の個人情報は、契約の履行、弊社からの商品・サービスのご案内以外の目的には使用いたしません。

株式会社 **ぎょうせい**

【本 社】東京都中央区銀座7-4-12 〒104-0061

【本 部】東京都江東区新木場1-18-11 〒136-8575

電話:0120-953-431 FAX:0120-953-495 ☎

ISBN978-4-324-08614-8

URL **http://www.gyosei.co.jp**

(H21.1)

取扱者

ISBN978-4-324-08638-4 C3037 ¥1619E

定価(本体1,619円+税)

[5107434-00-000]



9784324086384



1923037016198

(主要目次)

第1章 **入園面接**

第2章 **首がすわるまで** [0~3か月]

第3章 **寝返りの始まり** [4~6か月]

第4章 **這い這いの始まり** [6~7か月]

第5章 **這い這いの充実** [8~9か月]

第6章 **つかまり立ちから伝い歩き** [10~12か月]

第7章 **歩行の完成** [1歳前半]

第8章 **調整しながら歩く** [1歳後半]

第9章 **自我の拡大から充実へ** [2~3歳]

第10章 **自励心、自制心が育つ** [3~4歳6か月]

第11章 **自励心、自制心の発揮** [4歳6か月~5歳]

第12章 **真ん中の発見** [5~5歳10か月]

第13章 **認めあい育ちあう** [5歳10か月~7歳]

第14章 **あそびの展開とクラス運営** [3~5歳児]